



# 株式会社アーバンリサーチ

## Adobe Creative Cloud グループ版 導入事例

コンテンツの内製を支えるAdobe Creative Cloud

### 株式会社アーバンリサーチ

「DESIGN YOUR LIFE STYLE」をテーマに、主にメンズ・レディースウェアなどを企画、製造、販売。また、服飾のみならず生活雑貨全般まで幅広く商品を展開している。カジュアルティストをベースに世界中からテイラーウェアやドレス、ライフスタイル雑貨をセレクトし提案。本社は大阪市西区。従業員数およそ1500人。



株式会社アーバンリサーチ  
販売促進部  
時位 歩氏

「長期的なビジョンに立つと、社内でコンテンツ制作のノウハウを蓄積していくのは、宝となっていきます。さらに、コンテンツを作る人間が社内にいることで、ブランドを濃厚に押し出していくこともできるのです」。このように力強く語るのは、アパレル大手、アーバンリサーチにおけるコンテンツ制作の現場を統括する立場にある販売促進部の時位氏。店頭POPなどの紙媒体にはIllustrator、自社のWEBサイトはPhotoShop、店頭のサインージで流す動画はPremiere ProやAfter Effectsを使用。アーバンリサーチは、自社のあらゆるコンテンツを社内で制作、その全てをAdobeのクリエイティブツールがサポートしている。そんなアーバンリサーチは2014年春、Creative Cloudへと移行、より快適なストレスのない制作環境を整備した。

### ■ Creative Cloud グループ版導入の背景と課題

「自社でできることは自社でやっていくというのが、当社のスタンスです」（時位氏）。アーバンリサーチは、アパレルメーカーでありながら、広告関連のあらゆるコンテンツを社内のスタッフが制作している。コンテンツの内製化は、アーバンリサーチの大きな特徴であり、経営方針ともなっている。コンテンツの内製化を推進する中で、アーバンリサーチはWEBデザイナーから動画編集者といったクリエイターを、社外から積極的に登用、自社のスタッフとして採用してきた。そして、そうして集められたクリエイターの多くが、Adobeのクリエイティブツールのユーザーであった。コンテンツの内製化→クリエイター（Adobeユーザー）の増加という流れの中で、必要とされるライセンスも増えていくことは自明の理。増え続けるライセンスの需要に対し、サブスクリプション型の契約となるCreative Cloudは、初期導入コストの面でパッケージ版よりも大きなメリットがあった。また、増加するライセンスの管理コストに対する策としても、サブスクリプション型への移行は合理的な選択であった。

### ■ 導入後の成果

#### ● 管理の視覚化がもたらす恩恵

「Creative Cloudに変えたら管理サイトで誰がどのライセンスを使っているのかという使用状況が明確になりました。正直、すごく楽になりました」。このように語るのは、ソフトウェアの管理責任者である情報システム課の佐藤 剛氏。ライセンス使用状況の「視覚化」は、管理者にとって「転ばぬ先の杖」のように作用している。スタッフの入れ替え時に生じるライセンスの付け替えも容易になり、コンプライアンス面でも大きく貢献しているという。特にコンプライアンス面においては、ミスを未然に防ぐことから安心感は大い。Creative Cloud移行時（2014年春）、およそ50だったライセンス数は、2014年11月時点でおよそ150にまで増加。管理を一人で担う佐藤氏は「パッケージ版だったらかなりしんどかったでしょうね」と苦笑いで話す。

#### ● ストレスフリーな制作環境がコンテンツをよりクリエイティブに

制作の現場では、環境が切り替わる際に生じる不具合が疎まれるところだが、Creative Cloudにはその心配が一切ない。「CSからCreative Cloudへの切り替えの際に環境設定が自動的に引き継がれたので導入がすごくスムーズでした」。このように語るのは、販売促進部でデザイナーとして活躍する越智 泉さん。移行時のストレスがなく、作業効率は大幅にアップした。パッケージ版の頃は、スタッフ間のデータのやり取りで、一方がわざわざバージョンを下げたりすることもあったという。しかし、バージョンが統一されるCreative Cloud環境下では、このようなナンセンスなやり取りは一切無くなった。スタッフ同士の足並みが揃ったことで、ストレスフリーなコンテンツ制作に集中できる環境が整った。



株式会社アーバンリサーチ  
情報システム課  
佐藤 剛氏



株式会社アーバンリサーチ  
販売促進部  
越智 泉氏

## ■ 今後の取り組み・展望

「限られた時間の中で良いものを作っていくには、ソフトウェアの力に頼るところが大きいので助かっています」(時位氏)。時位氏のAdobeクリエイティブツールに対する信頼は揺るぎない。Creative Cloud導入後、社内では動画を専門とするスタッフが、Creative Cloudに入っているWEB制作ソフトウェアを追加料金なく自由にインストールできる環境により、WEBに興味を持ち、新たな展開を模索する動きがあるという。スタッフが自発的に畑違いの分野に気軽にチャレンジできるのもCreative Cloud環境ならではといえる。今後もインハウスでのクリエイターを積極的に育てていく予定だ。

### 製品に関する詳細

[www.adobe.com/jp/creativecloud/](http://www.adobe.com/jp/creativecloud/)



アドビ システムズ 株式会社  
〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2  
ゲートシティ大崎イーストタワー  
[www.adobe.com/jp/](http://www.adobe.com/jp/)

Adobe Systems Incorporated  
345 Park Avenue  
San Jose, CA 95110-2704  
USA  
[www.adobe.com](http://www.adobe.com)